

《外用薬の種類と使い方 その1》

・外用薬とは？

内服薬（飲み薬）は口から飲み込み消化管を通して吸収される薬ですが、外用薬は皮膚や鼻の粘膜、目などに直接使用する薬のことで、外用薬には様々な種類があり、個々の薬剤によって使い方が異なる為、使用法をしっかりと理解することが大切です。



外用薬の種類

点眼薬、点鼻薬、点耳薬、貼付薬、塗布薬（軟膏、クリーム、ローションなど）
坐薬、吸入薬、口腔用薬（トローチ、うがい薬など）

●点眼薬：目に滴下する薬です。目の乾燥、充血や炎症が起きているようなときに使用します。



使用する際には、薬液が汚染されないように、まず手を石けんなどでよく洗います。また、容器の先端がまぶたやまつ毛に触れないように注意する必要があります。

上を見上げるように頭を後ろに倒し、下瞼を軽くひいて薬を滴下します。その後、しばらくまぶたを閉じて、目頭を軽く押さえると涙道から薬が流出するのを防ぐことができます。目の周りに出てしまった薬は、ティッシュなどで拭き取るようにして下さい。

複数の薬を使う場合には、少なくとも5分ほど間隔をあける必要があります。

使用後は、蓋をしっかりとめて保管します。

薬によっては、遮光保存が必要なものもあります。付属の袋に入れて保管するようにして下さい。冷所での保管が必要なものもあるので注意して下さい。

●点鼻薬：鼻の中に噴霧する薬です。主に鼻炎症状（鼻水、鼻づまりなど）に使用します。



液状の薬液をスプレーするものや、粉末タイプのを噴霧するものもあります。

使用する前に、お薬がしっかり鼻の中で作用するように、鼻をかんで下さい。

薬の種類によって異なりますが、液状のタイプの点鼻の場合は、毎回使う前によく振るようにして下さい。

頭をうつむき加減にして、鼻腔内に薬を噴霧します。

噴霧した後は、容器の先端をティッシュなどで拭いて蓋をしめて保管して下さい。各薬剤で1日の使用回数が異なるので、使用する際には注意が必要です。使用回数をむやみに増やすと、かえって症状が悪化する可能性もあるので気を付けて下さい。